

## 平成26年度倉吉市健全化判断比率

(単位：%)

	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
健全化判断比率	— (-2.27)	— (-8.85)	13.6	125.5
早期健全化基準	12.85	17.85	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

※実質収支または連結実質収支が黒字である場合は、「実質赤字比率」または「連結実質赤字比率」は「—」で表示となる。

※( )内は、実質黒字または連結実質黒字の比率を負の値で表示したもの。

## 平成26年度倉吉市資金不足比率

(単位：%)

	水道事業	簡易水道事業	下水道事業	集落排水事業	温泉配湯事業	国民宿舎事業
資金不足比率	—	—	—	—	—	—
経営健全化基準	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0

※資金不足が生じない場合は、「資金不足比率」は「—」で表示となる。

倉吉市 健全化判断比率の状況 平成26年度

実質赤字比率			
区分		実質収支額 (単位:千円、%)	
分子	1	一般会計	287,246
	2	住宅資金貸付事業	33,978
	3	高齢者・障害者住宅整備資金貸付事業	0
	4	土地取得事業	0
	A	(1~4)	321,224
分母	B	標準財政規模	14,138,759
実質赤字比率		$-A/B \times 100$	-2.27

連結実質赤字比率			
区分		実質収支額、 資金不足・剰余額 (単位:千円、%)	
分子	1	国民健康保険事業	29,750
	2	介護保険事業	48,368
	3	後期高齢者医療事業	2,203
	4	駐車場事業	0
	5	水道事業	851,008
	6	簡易水道事業	0
	7	下水道事業	0
	8	集落排水事業	0
	9	温泉配湯事業	110
	10	国民宿舎事業	0
	A	実質赤字比率の(1~4)+(1~10)	1,252,663
分母	B	標準財政規模	14,138,759
連結実質赤字比率		$-A/B \times 100$	-8.85

実質公債費比率					
区分		決算額(単位:千円、%)			
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	
分子	1	公債費充当一般財源等額(繰上償還額及び満期一括償還地方債の元金に係る分を除く)	2,685,092	2,660,872	2,583,913
	2	満期一括償還地方債の1年当たりの元金償還金に相当するもの(年度割相当額)等	0	0	0
	3	公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金	1,389,392	1,413,770	1,432,780
	4	一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	224,944	182,340	192,485
	5	公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	20,918	13,070	9,237
	6	一時借入金の利子	0	0	0
	7	災害復旧費等に係る基準財政需要額	1,187,218	1,203,514	1,317,024
	8	災害復旧費等に係る基準財政需要額(準元利償還金に係るものに限る。)	179,027	150,340	150,824
	9	事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費	592,249	553,210	511,489
	10	事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費(準元利償還金に係るものに限る。)	709,588	733,512	757,462
	11	密度補正により基準財政需要額に算入された元利償還金	0	0	0
	12	密度補正により基準財政需要額に算入された準元利償還金(地方債の元利償還額を基礎として算入されたものに限る。)	16,404	16,943	17,167
分母	A	(1~6)-(7~12)	1,635,860	1,612,533	1,464,449
	13	標準税収入額等	6,299,295	6,242,310	6,330,060
	14	普通交付税額	7,041,529	7,044,227	6,878,627
	15	臨時財政対策債発行可能額	932,263	978,726	930,072
B	(13~15)-(7~12)	11,588,601	11,607,744	11,384,793	
実質公債費比率		$A/B \times 100$	14.11611	13.89187	12.86320
実質公債費比率		(三カ年平均)	13.6		

将来負担比率				
区分			決算額 (単位:千円、%)	
分子	将来負担額	1	地方債の現在高	29,645,183
		2	債務負担行為に基づく支出予定額	10,779
		3	公営企業債等繰入見込額	21,165,931
		4	組合等負担等見込額	1,857,960
		5	退職手当負担見込額	2,675,600
		6	設立法人の負債額等負担見込額	0
			地方道路公社	0
			土地開発公社	0
	第三セクター等	0		
	7	連結実質赤字額	0	
	8	組合等連結実質赤字額負担見込額	0	
9	充当可能基金	4,443,283		
10	充当可能特定歳入	2,133,531		
	うち都市計画税	0		
11	基準財政需要額算入見込額	34,479,428		
A	(1~8)-(9~11)	14,299,211		
分母	B	実質公債費比率のB	11,384,793	
将来負担比率			$A/B \times 100$	125.5

	(単位:%)			
	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
倉吉市健全化判断比率	—	—	13.6	125.5
早期健全化基準	12.85	17.85	25.0	350.0
財政再生基準	20.00	30.00	35.0	

※実質収支または連結実質収支が黒字である場合は「実質赤字比率」または「連結実質赤字比率」は「-」で表示となる。

総括表① 健全化判断比率の状況（平成26年度決算）

Ver.26.00

(単位:%)

地方公共団体 コード	都道府県名	市区町村名	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
312037	鳥取県	倉吉市	-	-	13.6	125.5

団体区分

3.市

↑※必ず選択して下さい。

(単位:%)

標準財政規模 (千円)	うち臨時財政対策債 発行可能額	早期健全化基準	12.85	17.85	25.0	350.0
	14,138,759	930,072	財政再生基準	20.00	30.00	35.0

総括表② 連結実質赤字比率等の状況（平成26年度決算）

Ver.26.00

団体名

鳥取県倉吉市

会計名		実質収支額	(分母比)
一 般 会 計 等	一般会計	287,246	2.0
	住宅資金貸付事業	33,978	0.2
	高齢者・障害者住宅整備資金貸付事業	0	
	土地取得事業	0	
小計		321,224	2.3
標準財政規模		14,138,759	100.0
実質赤字比率 (%)		-2.27	※

会計名		実質収支額	(分母比)
公 営 企 業 に 係 る 特 別 会 計 以 外 の 会 計	国民健康保険事業	29,750	0.2
	介護保険事業	48,368	0.3
	後期高齢者医療事業	2,203	0.0
	駐車場事業	0	

会計名		資金不足・剰余額	(分母比)
法 適 用 企 業	水道事業	851,008	6.0
法 非 適 用 企 業	簡易水道事業	0	
	温泉配湯事業	110	0.0
	下水道事業	0	
	集落排水事業	0	
	国民宿舎事業	0	
合計		1,252,663	8.9
標準財政規模(再掲)		14,138,759	100.0
連結実質赤字比率 (%)		-8.85	※

※ 実質収支又は連結実質収支が黒字である場合、「実質赤字比率 (%)」又は「連結実質赤字比率 (%)」は負の値で表示されます。

総括表③ 実質公債費比率の状況(平成26年度決算)

Ver.26.00

団体名 鳥取県倉吉市

(単位：千円)

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	元利償還金の額(繰上償還額等を除く)(3③A表「元利償還金」欄の数値を転記)	積立不足額を考慮して算定した額(3①表「エ」欄の数値を転記)	満期一括償還地方債の1年当たりの元金償還金に相当するもの(年度割相当額)(3①表「ウ」欄の数値を転記)	公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に充てたと認められる繰入金(3②表「合計※」欄の数値を転記)	一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる補助金又は負担金	公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	一時借入金の利子	特定財源の額(3③A表「特定財源計」欄の数値を転記)	事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費	事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費(準元利償還金に係るものに限る。)	災害復旧費等に係る基準財政需要額	災害復旧費等に係る基準財政需要額(準元利償還金に係るものに限る。)
平成24年度	3,051,173			1,389,392	224,944	20,918		366,081	592,249	709,588	1,187,218	179,027
平成25年度	2,851,831			1,413,770	182,340	13,070		190,959	553,210	733,512	1,203,514	150,340
平成26年度	2,763,754			1,432,780	192,485	9,237		179,841	511,489	757,462	1,317,024	150,824

	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰
	密度補正により基準財政需要額に算入された元利償還金	密度補正により基準財政需要額に算入された準元利償還金(地方債の元利償還額を基礎として算入されたものに限る。)	標準税収入額等	普通交付税額	臨時財政対策債発行可能額
平成24年度		16,404	6,299,295	7,041,529	932,263
平成25年度		16,943	6,242,310	7,044,227	978,726
平成26年度		17,167	6,330,060	6,878,627	930,072

⑱
地方財政法第5条の3第4項第1号の規定に基づき総務大臣が定める額(特別区のみ記入)

	実質公債費比率(単年度)
平成24年度	14.11611
平成25年度	13.89187
平成26年度	12.86320

実質公債費比率(3カ年平均)
13.6

(参考)

	⑥の内訳									
	PFI事業に係る債務負担行為に係るもの(省令第7条第1号)	いわゆる五省協定等により、利便施設及び公共施設を買い取るために行った債務負担行為に係るもの(省令第7条第2号)	国営土地改良事業並びに独立行政法人森林総合研究所、独立行政法人水資源機構及び独立行政法人環境再生保全機構の行う事業に対する負担金(省令第7条第3号)	地方公務員等共済組合が建設した職員住宅等の無償譲渡を受けるために支払う賃借料(省令第7条第4号)	社会福祉法人が施設の建設のために借り入れた借入金償還に対する補助(省令第7条第5号)	損失補償又は保証に係る債務の履行に要する経費の支出(省令第7条第6号)	地方公共団体以外の者の債務を引き受けた場合における当該債務の履行に要する経費の支出(省令第7条第7号)	その他これらに準ずると認められるもの(省令第7条第8号)	利子補給に係るもの(政令第12条第4号)	
平成24年度							20,439		479	
平成25年度							12,805		265	
平成26年度							9,160		77	

総括表④ 将来負担比率の状況（平成26年度決算）

Ver.26.00

団体名

鳥取県倉吉市

将来負担額

(単位:千円)

地方債の現在高	債務負担行為に 基づく支出予定額	公営企業債等 繰入見込額	組合 負担等見込額	退職手当 負担見込額	設立法人の 負債額等 負担見込額	地方債の現在高			連結実質 赤字額	組合連結実質 赤字額負担見込額
						地方道路公社	土地開発公社	第三セクター等		
29,645,183	10,779	21,165,931	1,857,960	2,675,600	0	0	0	0	0	0
(分母比) 260	0	186	16	24						

充当可能財源等

(単位:千円)

充当可能基金	充当可能 特定歳入	基準財政需要額 算入見込額	
		うち都市計画税	
4,443,283	2,133,531	0	34,479,428
(分母比) 39	19		303

将来負担額 A	486	—	充当可能財源等 B	361	A - B	126	将来負担比率 (%)
55,355,453			41,056,242		14,299,211		
=							
標準財政規模 C	124	—	算入公債費等の額 D	24	C - D	100	
14,138,759			2,753,966		11,384,793		125.5